

「いいたて まていな復興計画(第2版)」を策定

復興の着実な実現を目指します



村内拠点の整備イメージ



村内各所の既存施設の復旧復興を進めるとともに、臼石地区周辺に“まていな暮らし”のできる環境対応の復興住宅や、植物工場、食品加工工場などの新たな生産施設、今の飯館を発信する村外との交流拠点を整備

8月22日、まていな復興計画(第2版)が各方部懇談会や議会での審議を経て成案となりました。村の復興計画は、村民それぞれに抱える事情が異なることから、「村に戻る人」「村に居ない人」に「村に戻りたくても戻れない人」など村民一人ひとりに寄り添うことを理念としています。第2版では、より具体的に村の復興を進めるため、村内の既存インフラの復旧・復興を図るとともに「帰村のための村内拠点」と「村外の子育て拠点」を整備することとしています。成案となった「いいたて まていな復興計画(第2版)」についてお知らせします。

帰村についての考え方

村内の除染の状況や公共施設の再開予定等、帰村に向けた十分な判断材料の提供を継続的に、村民一人ひとりの「戻る」「戻らない」の選択を支援します。

重点プロジェクト
○「帰村のための村内拠点(仮称)」の整備
放射線影響が少ない臼石地区及び除染が完了した区域に、最新のテクノロジーと飯館本来の自然の力を活用した、帰村のための村内拠点を整備します。

第3段階 将来	避難生活の継続的支援	
	第2段階 2～5年程度	第1段階 今後2年程度
帰村と再生の取り組みを拡大し、村と村民の復興を図る。	帰村のための住環境・生活環境の整備・産業の再生と雇用の確保	村内除染の推進

○段階的復興の考え方
構想実現のための主体として「いいたて復興公社(仮称)」の設立等

村外拠点の整備イメージ



関連市町村と連携のうえ、仮設小・中学校、幼稚園の近辺に子どもたちと子育て世帯の拠点を整備

今後の復興に向けた重要課題

- 安全・安心のために、綿密な健康管理を行うほか、放射線リスクに対する正確な判断を支援するためのリスクコミュニケーションを実施するほか次のような課題に取り組みます。
- コミュニティの再構築・生きがいがつくり
- 除染の計画的推進と帰村環境の整備
- 土地利用計画の策定と公共施設整備
- 産業の再興と働く場の確保

村では、この計画を着実に進めるために、「新まていな村構想推進準備委員会」を9月12日に設置しました。今後、準備委員会では、復興計画にある村内外の拠点等について、具体的な検討が行われます。(関連記事27ページ)

※「いいたてまていな復興計画(第2版)」は村のホームページで公開しています。

○安心して子どもを育てられる環境「村外子育て拠点(仮称)」の整備
仮設小・中学校、幼稚園に近接する地域に、子育て世代が安心して住める環境を整え、子どもが安心して遊べるキッズガーデンや子育て世代が集まって情報共有できる支援施設・カフェ等を確保します。また、引き続き特色ある教育に力をいれていきます。

- 「未来への翼」事業等、村独自の教育の継続・充実、教育費支援の継続
- 幼稚園・小・中学校周辺に子育て世帯のための公営住宅の整備
- 子育ての情報交換ができる公民館等のコミュニケーション施設や、子どもたちが室内で安心して遊べる「キッズガーデン」等の整備等

今後の復興に向けた重要課題と復興の流れ

